

AAAL オートアフターマーケット活性化連合 SEMA ツアー2014 報告

JAAMA・JACA 事務局: 滝澤政明

日 程: 2014年11月1日(土)~11月8日(土)

コース: 成田→デトロイト→ラスベガス→成田

参加者: 24名 (APARA、JAAMA、JACA、JASMA、NAPAC 5団体より参加)

2006年から毎年実施しているSEMA ツアーも今年で9回目を迎えました。

今回のSEMA ツアーは昨年度と同じコース デトロイト3(スリー)の本拠地 米国自動車産業発祥地デトロイト視察に焦点を当てた企画です。

「デトロイト再生へ一歩」

昨年デトロイト市がアメリカ連邦破産法第9条による保護を申請したことは既にメディア等で報じられました。

今回現地の視察で感じたのは、早くもデトロイト市の復興工事が始まっており、一度廃線した路面電車の復活工事が始まっていました。又 中心部の土地価格が上昇傾向で不動産屋が土地を買い始めたようで価格が数倍~10倍上がったところも出てきたようです。明るい兆しが見えてきた証拠でしょう。

米国自動車メーカー デトロイト・スリー(GM、FORD、FIAT CHRYSLER)の業績が

昨年度から自動車生産及び売上は順調に伸び、特に個人消費に勢いが加わり、大型SUV、ピックアップの売り上げが好調のようです。



・GM 本社ビル「GM ルネッサンスセンター」デトロイト市の中心にあります、マリオットホテル、日本領事館も入っています。

・GM 車ショールームが入っており全てのブランドがココで見られ触れチェック出来ます。

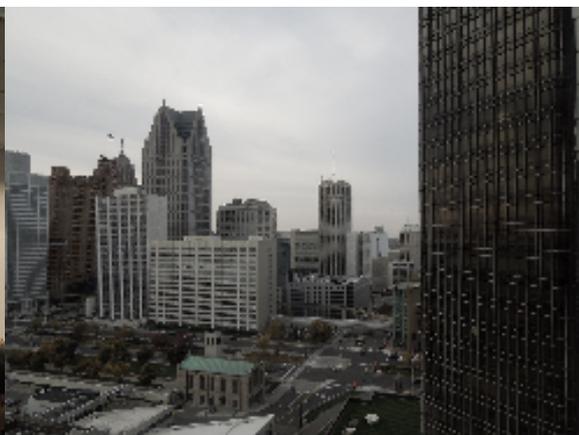
・在デトロイト日本国総領事館 セミナー:「米国自動車販売の現状」

2014年9月の新車販売台数は容易かつ低金利なローン、低いガソリン価格、新型車の投入等により引き続き好調であり、単月では過去10年間で最大。(単月で前年同月比9.4%増、累計で同5.5%増)

・ピックアップトラック(フォードは年末の新型車投入を見越した在庫整理、買い控え等により減少)やSUVが好調であり、特に前者は販売上位車種1・2・3位を独占。

・2014年の累計市場シェアは、米国勢:45.1%、日本勢:37.7%、欧州勢:9.0%、韓国勢:8.1%。(CAR調べ)

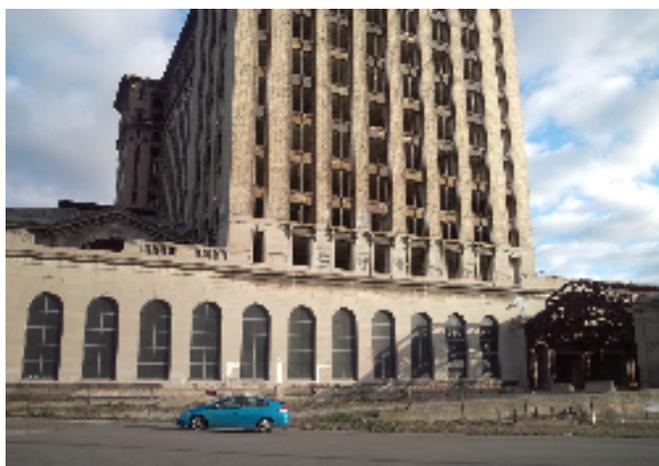
住宅とPicUpトラックが売れる事は景気が良くなった証拠と教えて頂きました。



上・領事館会議室から見たデトロイト市の中心ダウンタウン

左・在デトロイト日本国総領事館 片山様 高瀬様

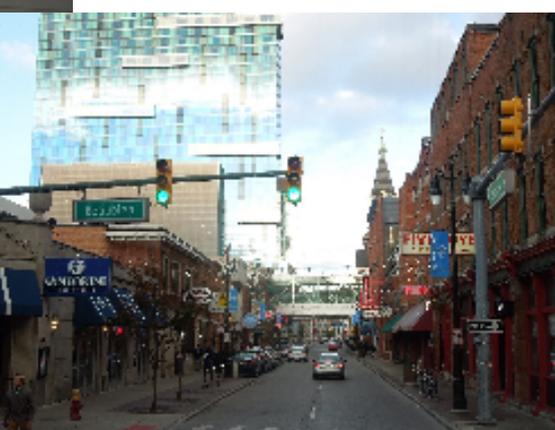
「デトロイト市内」



ようやく町の復興作業が動き始め 古いビル等復興プロジェクトのスタート。

デトロイト市内に人が戻る復活へのスタートが始まったようです。

ミシガン中央駅は1913年に設立された18階建てのビルです。建設当時は世界で最も高い鉄道駅として有名になりました。1975年に国家歴史登録財に指定 しかし1988年に閉鎖され今は観光名所になっています。



デトロイトタイガースの本拠地
球場名は「コメリカ・パーク」
古いレンガ壁のビルは1920年台のビル

「ヘンリー・フォード博物館」・「グリーンフィールドビレッジ」

エジソン学会(Edison Institute)が管理・運営するヘンリーフォード博物館は(正式には“ヘンリーフォード博物館とグリーンフィールドビレッジ:Henry Ford Museum and Greenfield Village)アメリカ最大級でミシガン州メトロ・デトロイトエリアに属する、ディアボーンの博物館複合施設であり、アメリカ合衆国国定歴史建造物に指定されている。

館内はとても広く高く、蒸気機関・発電機、ファニチャー、生活文化等のコーナーが有りゆっくり見ると1日が必要となる。更に博物館の外(反対側)にグリーンフィールドビレッジが有り、1920年代の町(村)を忠実に再現してある。こちらも見学には半日以上の時間が必要です。



自動車殿堂(Automotive Hall Of Holl)

自動車殿堂に1989年本田総一郎が殿堂入りしている。CVCCエンジンの開発を主導、シビックに搭載し1970年代の米国排気ガス基準を満たした最初のメーカー。



HONDA ACCORD

米国 OHIO 工場第1号車が展示してある。





自動車殿堂(Automotive Hall Of Fame)にて

「グリーンフィールドビレッジ」



右 エジソン研究所

ここでエジソンがいろいろな研究・実験をしました。
 天上に小さく見えるのが電球です。日本の竹を使ったフィラメントです。この電球の明るさはたった6W、10個合わせても60Wです。

T型フォード全盛の1920年代のディアボーンの街(村)を再現し、自動車や蒸気機関車も当時のモノを走らせています。スタッフの服装も、建物も全て1920年代。

T型FORDに乗ってみました。前進2速・後進1速・2400CC・4気筒エンジンは何の問題もなくスムーズに加速しました。



左・FORD MOTOR COMPANY 設立当時の再現
 T型フォードは16年間販売つづけ 全世界で1500万台を販売した。





デトロイト市内「小売店舗クリニック」

・シアーズ・オートセンター Sears Auto Center
 庶民デパートとして有名なシアーズのオート部門
 パーツ販売だけでなく ピットも備えており、タイヤ交換から整備までこなします。朝会社へ行く前に車を預け夕刻に引き取りに来ます。

・アドバンス・オート・パーツ Advance Auto Parts
 米自動車部品小売り1位
 ゼネラル・パーツ・インターナショナルを買収し補修部品市場(アフターマーケット)で Auto Zone を抜き北米最大の自動車部品プロバイダーとなった。
 パーツ&アクセサリーの販売のみでPit サービスは無く、駐車台数も 10 数台と狭い小型店である。
 主にパーツとアクセサリーを販売しておりメンテナンスやバッテリー交換修理等のサービスは一切行なわない。
 ライバルは オートゾーン Auto Zone

・ダンニング・トヨタ/DUNNING TOYOTA 複数のオートディーラーの集まるアナーバー通りにあるトヨタディーラー、トヨタと若者向けのサイオンブランドを取扱う。併設した棟でスバルディーラーも展開。



顧客満足向上を達成する為には、まず社員にそれを解ってもらう事が一番大切だと言う副社長兼ゼネラルマネージャーのジョンFテイラー氏。テイラー氏の説明によるとトヨタから日本式のカイゼン(改善)を学び少しずつ親切な対応、お客様がどう喜んでいただけるかを実践しているとの事。テイラー氏の話す内容は日本人の(トヨタマン)ような感じを受けた。ピットサービスに来るお客様の対応も笑顔で迎えている姿に感動すら覚えた。

土地柄か、FRS(86)の売り上げが今一步。
 併設している隣の SUBARU 店の FRZ の方が良いとか。

「SEMA SHOW 2014 Las Vegas 視察」

昨年以上の賑わいを見せていた会場の人と展示車両の数！

米国自動車メーカーの売上好調と正比例しているかのように昨年以上の規模、展示数です。デトロイト3はマッスルカー（GM カマロ、FORD マスタング、CHRYSLER チャレンジャー）とBIG・SUVに力を入れた展示です。

・一時展示台数が減った日本車も元気になってきました。「TOYOTA・86」、アメリカでは SCION サイオンブランド「SCION・FR-S」で販売されています。このFR-Sの展示車両が多いこと！アメリカでの人気に分ります。



上 MAZDA 新型 MX5 来年のワンメイクレース仕様



・カーメイトは
「RAZO(レッツォ)」ブランド名のブースです
シフトノブ、ペダルの商品
展示車は「SCION・FR-S」(TOYOTA86)

日本からのカー用品の出展です。

・星光産業 SEIKOSANGYO は
「JAPAN DESIGN&QUALITY」をアピール
車内用品・灰皿・携帯電話関連商品



・PIAA Corporation
LED ライトをメインに展示
車のヘッドライトも HID から LED の時代です

「LAS VEGAS 小売店舗クリニック」



・バスプロショップ Outdoor World by BassPro Shop
アメリカ最大のアウトドア・スポーツ用品チェーンストア
衣料品・靴からモーターボート、拳銃・ライフルまでの品揃えです。
店内はとても広く 人口の川・滝が有り水が流れている。
エンターテイメント型大型カテゴリーキラー。

・ペップボーイズ ThePepBoys
オートパーツ及びオートアクセサリ販売の小売チェーン店。2013年業界売上全米4位
駐車台数を多くし、ピットサービス(取り付け)が特徴
タイヤ、オイル交換が出来るのが他のパーツショップとの違い。
店長の話だとピットサービス売上が全体の60%(粗利率60%)、物品売上が40%(粗利率15%)、

・オートゾーン AutoZone
米自動車部品小売り2位
昨年までパーツ売上1位だったが首位を Adbance Auto Parts に譲った。
パーツ&アクセサリの販売のみで Pit サービスが無いのが特徴。上のペップボーイズと対象店。
駐車台数も10数台と狭い小型である。



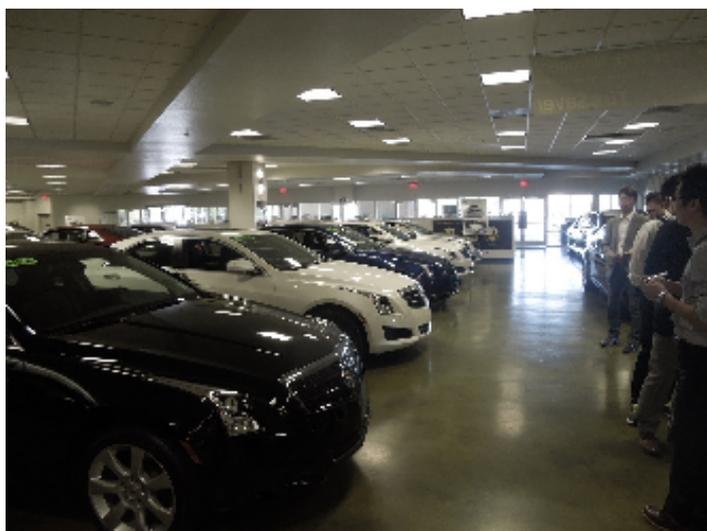
「Las Vegas Valley Automall(バレーオートモール)」

ラスベガス近隣で最大のオートモール

18 のディーラー及び 24 のブランドが集積されたオートモール。バレーオートモールは、ラスベガスの隣町であるヘンダーソン市に立地し、ラスベガスのストリップから東南に約 20 マイル(約

30 キロ)に位置するラスベガス近郊では最大の車ディーラー集積地区となる。現在では南ネバダでは最大のオートモールまでに成長した。このオートモールという形式はアメリカ人のクルマ購入方法に非常に適していることがその成長の要因の一つとなっている。

18 も数あるディーラーの中から、今回は GM グループのキャデラックディーラー「Findlay CADELAC」を訪問。



「キャデラックディーラー「Findlay CADELAC」」

キャデラック (Cadillac) は、ゼネラルモーターズが展開している高級車ブランドである。

外観は普通の建物のディーラーであるが、中に入って驚いたのが新車屋内展示 80 台の圧倒的ボリューム感。更に・地下に高さ 6M、48 台のリフト 広い整備工場 夏のラスベガスの気温は 45 度 C を越える為 お客さまに快適な環境とリラックスできる場を提供している。



FindlayCADELAC セールスマネージャー ビル・ヤングさんの説明によるとキャデラックのオーナーの平均年齢は 60 歳 リタイヤ組が多く、ゆっくりした走りを楽しむらしい。

・リピート率 80% 一度オーナーになると他車への乗り換えは余りしないそうだ。20%はメルセデス、BMW、レクサスへ移行と自信たっぷりの説明。



上: 地下3階にある修理工場 PIT48 台設置 夏涼しく、冬暖かい。

「まとめ」

- ・米国ミシガン州南東部にある都市デトロイト、日本車が少なく、アメ車(デトロイト 3)が多いエリアに、広く大きなアメリカを感じました。交通インフラが自家用車しかないこちらではクルマの依存、生活必需品として重要道具なのです。その中でTOYOTA車を扱っているトヨタディーラーDUNNING TOYOTAの高レベルな接客サービスは日本式の良い所を取り入れ徐々にシェアを上げているとマネージャーの説明に感動をうけました。
- ・ラスベガスでのキャデラックディーラーFindlay CADELACでは、地下にある広大な「ピットサービス工場」をはじめ、至れり尽くせりのサービスは、リピーター率 80%に現れています。
- ・アメリカ小売業のサービスは価格ディスカウントか、価格は下げずにサービスの質で満足させるかの2極化が進んでいるようです。

まだまだ報告したい事が沢山あるのですが、紙面の関係上報告はこの位にさせていただきます。

今回ツアー準備等にご協力していただいた、

在デトロイト日本国総領事館 片山様 高瀬様、JACの倉本様 ありがとうございます。

この場をお借りしてお礼申し上げます。

以上